

Systemwalker 導入事例：株式会社フードサプライジャスコ

月間50万枚もの紙帳票を削減。 「Systemwalker」の帳票ソリューションが貢献

(株)フードサプライジャスコでは、2002年1月に電子帳票システムを導入。納品書と仕入明細書の自社控分を電子化し、1ヵ月50万枚以上の紙削減に成功した。システム構築には、富士通の統合運用管理ソフトウェア「Systemwalker」の帳票ソリューション「Systemwalker ListWORKS」、「Systemwalker ListCREATOR」を採用。64KbpsのWAN環境でも快適な帳票表示を実現している。



(株)フードサプライジャスコ
情報システム部 部長
三村 博夫 氏



(株)フードサプライジャスコ
情報システム部 課長
成田 隆志 氏

地球環境保全とコスト削減に 貢献するペーパーレス化

フードサプライジャスコは、イオングループの食品加工・物流会社として、全国14カ所の事業所/センターから、ジャスコ/マックスバリュの店舗に食品および加工食品を届けている。

業務は、プロセス加工(PC)、ランニングストック(RS)、トランスファーセンター(TC)の3分野にわたる。PCは、店舗が発注した食材のパック包装や惣菜加工を行う。RSは、保存のきく野菜などをまとめ買いし、在庫としてストックしておく。TCは、日配品を中心に、取引先からの納品商品の検品と店舗配送を行う。食品を加工して届けるだけでなく、イオングループの食品流通を適正に維持するための重要な中継ぎ的な役割を担っているのである。

フードサプライジャスコが電子帳票システムの導入に踏み切った最大の理由は、地球環境保全に積極的に取り組んできたイオングループの中で、フードサプライジャスコとしてもできることから貢献したいと考えたためだ。

「そこで注目したのが、ペーパーレス化です。完全なペーパーレス化は困難ですが、自社利用分だけでも電子化することによって、地球環境の保全に少しでも貢献したいと考えました」と、フードサプライジャスコ 情報システム部 部長 三村博夫氏は言う。三村氏は、イオングループが、中国・万里の長城で進めている植林プロジェクトにリーダーとして参加するなど、以前から、人と自然との共生に深い関心を抱いてきた。

大手スーパーマーケット・チェーンが軒並み苦戦を強いられるなかで、電子帳票システムの導入が紙代の大幅な削減を実現できる点も評価された。「私たちは、商品の価格は、原価にコストを足すのではなく、お客さまが決めるものという信念を持っています。この信念のもとで利益を出すためには、コスト削減に向けた継続的な事業努力が不可欠なのです」と三村氏。

電子帳票システムの導入は、イオングループの「EDLQ (Every Day Low Cost)」の目標にも合致していたのである。

LAN/WAN環境でのスピーディーな表示で 「Systemwalker ListWORKS」を選択

電子帳票システムの選択にあたっては、3種類を比較検討した結果、富士通の統

ユーザープロフィール

株式会社フードサプライジャスコ

本社：千葉県船橋市高瀬町24番12号

設立：1981年10月29日

資本金：2億6000万円

従業員数：855人(2001年2月20日現在)

売上高：729億149万8千円

(2001年2月20日決算)

事業概要：イオングループの食品加工・物流会社。プロセス加工、ランニングストック、配送の3つの機能を、ジャスコ/マックスバリュの店舗に提供。現在、全国14カ所に事業所/センターを展開。2000年5月、ISO14000シリーズ取得^(注)



(注)：国際標準化機構(ISO)が定めた環境マネジメントシステムに関する一連の国際規格。環境に配慮し、環境負荷を継続的に減らすシステムを構築した組織に与えるもの。

合運用管理ソフトウェア「Systemwalker」の帳票ソリューション「Systemwalker ListWORKS」、「Systemwalker ListCREATOR」を採用した。

「デモンストレーションで帳票表示が極めてスピーディーだったのと、富士通の営業担当者と富士通ビジネスシステムのSEが熱心に対応してくれたためです」と三村氏。

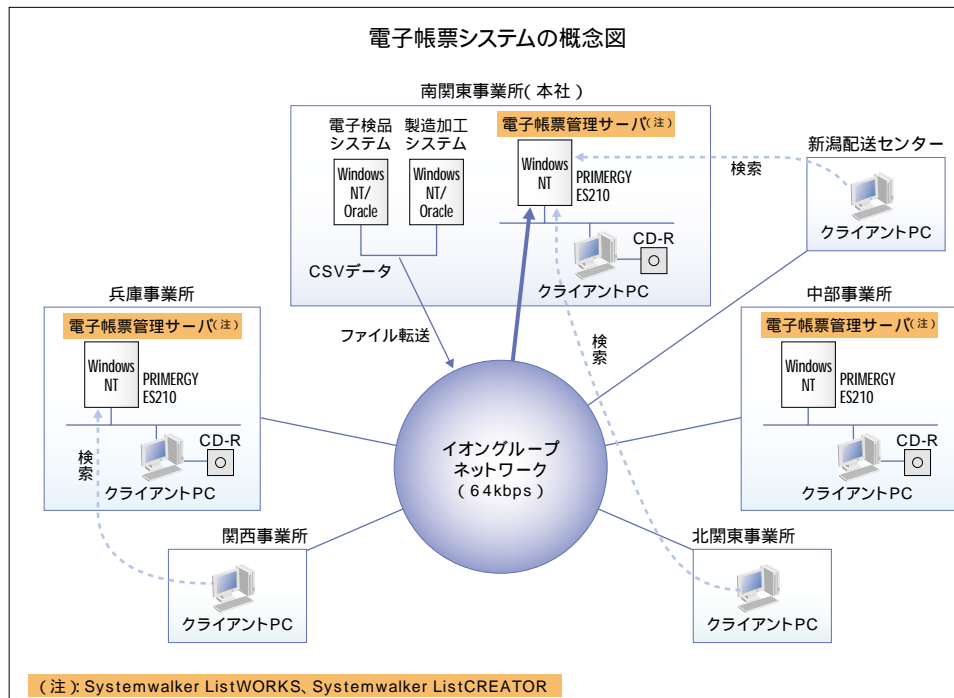
さらに、フードサプライジャスコ 情報システム部 課長 成田隆志氏は、「富士通は最初から、Windows NTサーバの自動リポートの仕組みで提案してくれました。運用の手間を少しでも軽減しようという心配りを評価しました」と付け加える。

「Systemwalker ListCREATOR」連携で帳票フォーム定義はプログラムレス

Systemwalker ListWORKSによる電子帳票システムは、2002年1月から稼働を開始した。電子化したのは、製造加工システムから出力される商品の納品書の控と、電子検品システムから出力される店舗仕入明細表の控である。

まず、製造加工システムと電子検品システムから電子化に必要なデータをCSV形式で切り出し、帳票設計・生成ツール「Systemwalker ListCREATOR」にファイル転送する。ここで、対話型のウィザードに従って、プログラムレスで定義された帳票フォームにより、CSV形式のデータが帳票にフォーマットされる。

帳票管理ツール「Systemwalker ListWORKS」で、帳票を電子化し、さらにCD-ROMに書き込んで記録する。ネットワーク負荷を軽減するため、Systemwalker ListWORKSおよびSystemwalker ListCREATORのサーバは、南関東、中部、兵庫の3事業所に設置し、北関東、関西の事業所からはクライアントPCで最寄りのサーバへアクセスする形にした。電子帳票システムの利用クライアントは、水産/畜



産などの部門ごとに1台ずつ設置し、全国合計で20台になる。

なお、通常の電子帳票システム構築は、上流システムからCSVファイルを受け取った後の部分の構築となる。フードサプライジャスコの場合は、製造加工システムと電子検品システムのOracleデータから電子化に必要なデータを切り出すところから、富士通ビジネスシステムのSEが開発を担当した。

紙代を1ヵ月118万円削減。問い合わせ対応もスピーディーに

電子帳票システムの構築によって、フードサプライジャスコの紙の消費量は、大幅に削減された。納品書の控が1ヵ月14万5千枚、仕入明細表の控が1ヵ月36万9千枚、合計51万4千枚の紙が節約できたのである。「紙代だけで、削減効果は1ヵ月に118万円。電子帳票システムの導入にかかった投資は、1年余りで回収できます」と三村氏は胸を張る。

納品伝票は7年間保存しなければならぬ。従来は、月に257ケースも発生する紙の伝票を保管するため、倉庫に大きな

スペースを確保しなければならなかった。現在は、CD-ROM書き込みまで自動化され、手間をかけずに省スペース保存ができる。

問い合わせに応じて、紙の伝票を探す手間もなくなった。Systemwalker ListWORKSを使えば、伝票番号や取引先名をキーワードにして、目的の伝票をスピーディーに検索できる。試算したところ、6拠点で月間合計90時間の問い合わせ対応時間短縮が実現できた。「64KbpsのWAN回線でサーバにアクセスするときでも、ストレスなく伝票が探せて、使い勝手が良いですね」と成田氏は喜ぶ。

イオングループでは、さらなるコスト削減を目指して、PC/RSセンターの再構築に取り組んでいる。今後も、Systemwalkerの帳票ソリューションによる柔軟な電子帳票システムは、21世紀型の新しい食品加工/流通システムを支えていくに違いない。

お問い合わせ先

富士通株式会社
 プラットフォーム事業推進本部
 ビジネス推進統括部 ミドルウェアビジネス推進部
 TEL 03-3548-3795 FAX 03-3548-3783
 URL <http://systemwalker.fujitsu.com/jp/>